

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

| | | | |
|-------|------------------|---------|---------------|
| 作成年月日 | 平成 29 年 2 月 24 日 | 担 当 部 署 | 総務管理部 行政改革推進課 |
|-------|------------------|---------|---------------|

※以下は平成 28 年 12 月 31 日現在の内容です。

2 法人等の概要

| | | | | | |
|---------|---|-------|------------|-------|-------|
| 法人等名称 | リフレ上越山里振興株式会社 | | | | |
| 代 表 者 名 | 代表取締役社長 田中 弘邦 | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 常 勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 | | | | |
| | <input type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input type="checkbox"/> 市兼務 <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | | | |
| 所 在 地 | 新潟県上越市大字皆口 601 番地 | | | | |
| 設立年月日 | 平成 10 年 12 月 18 日 | 資 本 金 | 120,000 千円 | 市出資割合 | 87.8% |
| 設 立 目 的 | 食と健康をテーマとしたリフレッシュビレッジ事業を通して、市民の財産ともいえる上越市西部中山間地の緑豊かな自然を活用し、地域農林水産業の活性化を図るため。 | | | | |

3 組織

(単位：人)

| | | 理事・ 取締役 | 監事・ 監査役 | 計 | 内訳 | | | |
|-----|--------|------------|------------|----|------|-----|-----|-----|
| | | | | | プロパー | 市派遣 | 市兼務 | その他 |
| 役 員 | 常勤 | | | | | | | |
| | 非常勤 | 11 | 1 | 12 | | | 1 | 11 |
| | 計 | 11 | 1 | 12 | | | 1 | 11 |
| 職 員 | 正職員 | | | 12 | 12 | | | |
| | 臨時職員 | | | 11 | 11 | | | |
| | パート職員等 | | | | | | | |
| | 計 | | | 23 | 23 | | | |

4 主な事業

| |
|----------------------------------|
| (1) くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家の管理運営 |
| (2) 文化振興に関する事業 |
| (3) 観光広告及び宣伝に関する事業 |
| (4) |
| (5) |
| (6) |
| (7) |

5 事業実績（概要）

【第19期の経営状況】

- 第19期の営業収益（売上高）は、前期との比較で、リフレッシュビレッジ施設全体では10,471千円の減（6.0%の減）の165,290千円となりました。くわどり湯ったり村では、利用者数の減少に伴い宿泊売上や日帰り売上が減少し、ヨーデル金谷では、レストラン売上とプライダル売上がともに減少したことにより、全体としての営業収益（売上高）が減少しました。
- 営業費用は、経費削減の取組を進めたことや燃料単価の値下がりなど外的要因による減少もあり、前期との比較で7,032千円の減（4.1%の減）の162,626千円となりました。
- この結果、最終的な当期純利益は1,278千円となり、二期連続の単年度黒字を達成し、第19期末の欠損金は180,244千円となりました。

【施設別実績】

(1) 主な取組

- ① くわどり湯ったり村
 - ・ 「湯ったり村祭り」のほか新たなイベントの展開による新規顧客の確保
 - ・ 「老人会プラン」など既存プランの早期提案による顧客の確保
- ② ヨーデル金谷
 - ・ 「ハロウィン」「クリスマス」など100名規模のイベントの開催による収益の確保
 - ・ ホームページの開設、フェイスブックの拡充による新規顧客の掘り起こし

(2) 利用者数実績

| 施設名 | 第17期 (H26.1~H26.12) | 第18期 (H27.1~H27.12) | 第19期 (H28.1~H28.12) |
|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| くわどり湯ったり村 (うち宿泊者数) | 52,177人 (3,291人) | 51,434人 (3,598人) | 49,439人 (3,381人) |
| ヨーデル金谷 | 18,627人 | 19,345人 | 19,309人 |
| ゆったりの家 | 597人 | 1,215人 | 1,054人 |
| 合計 | 71,401人 | 71,994人 | 69,802人 |

- リフレッシュビレッジ施設全体の利用者数は、前期との比較で2,192人減（0.3%の減）の69,802人となりました。

(3) 損益状況

| 施設名 | 区分 | 第17期 (H26.1~H26.12) | 第18期 (H27.1~H27.12) | 第19期 (H28.1~H28.12) |
|-----------|------|------------------------|------------------------|------------------------|
| くわどり湯ったり村 | 売上高 | 120,743千円 | 121,021千円 | 113,852千円 |
| | 営業利益 | 4,083千円 | 4,454千円 | 1,274千円 |
| ヨーデル金谷 | 売上高 | 47,421千円 | 54,740千円 | 51,438千円 |
| | 営業利益 | △3,965千円 | 1,649千円 | 1,390千円 |
| 合計 | 売上高 | 168,164千円 | 175,761千円 | 165,290千円 |
| | 営業利益 | 118千円 | 6,103千円 | 2,664千円 |

- くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷ともに前期との比較で、売上高は減少しましたが、それを上回る経費の削減などにより、営業利益ベースでプラスとなりました。

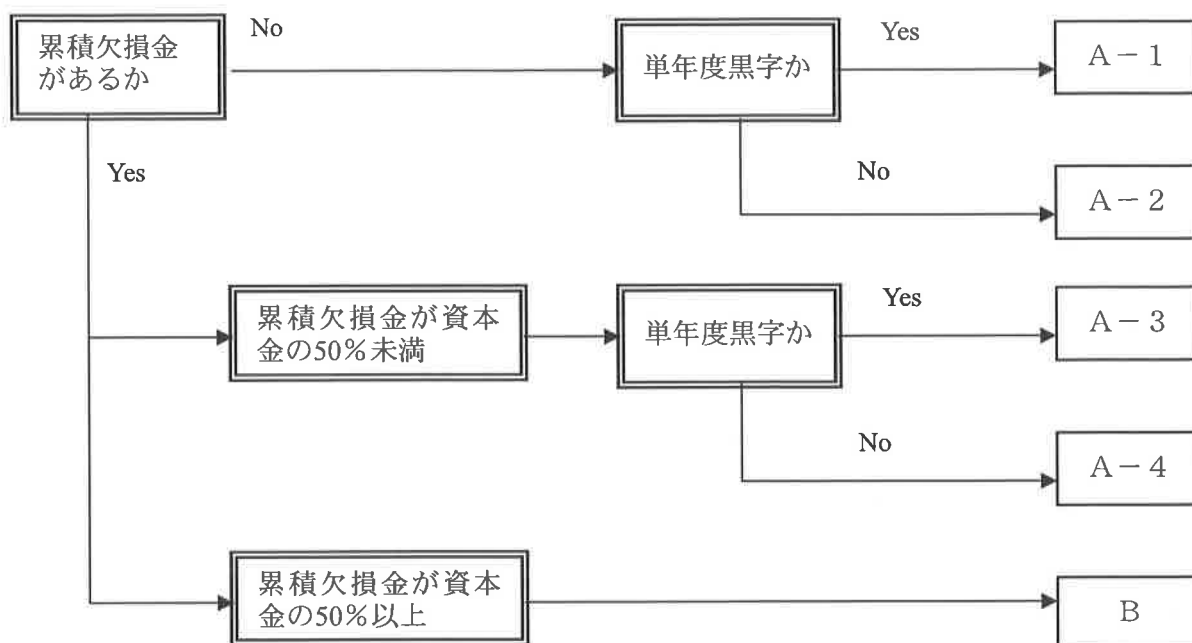
6 財務状況

(単位：千円)

| 項 目 | | 第17期 | 第18期 | 第19期 | 備 考 |
|-------|-----------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------|
| | | 自平成26年1月1日 至平成26年12月31日 | 自平成27年1月1日 至平成27年12月31日 | 自平成28年1月1日 至平成28年12月31日 | |
| 損益計算書 | 営業収益（売上高） | 168,164 | 175,761 | 165,290 | |
| | 営業費用 | 168,046 | 169,658 | 162,626 | |
| | 売上原価 | 40,580 | 47,054 | 42,565 | |
| | 一般管理費・販売費 | 127,466 | 122,604 | 120,061 | |
| | 営業利益 | 118 | 6,103 | 2,664 | |
| | 営業外収益 | 1,079 | 1,271 | 1,176 | |
| | 営業外費用 | 1,743 | 1,721 | 1,517 | |
| | 経常利益 | △546 | 5,653 | 2,323 | |
| | 特別利益 | 0 | 0 | 0 | |
| | 特別損失 | 0 | 2,770 | 0 | |
| | 税引前当期純利益 | △546 | 2,883 | 2,323 | |
| | 法人税等 | 1,068 | 1,091 | 1,045 | |
| | 当期純利益 | △1,614 | 1,792 | 1,278 | |
| | 項 目 | | 平成26年12月31日現在 | 平成27年12月31日現在 | 平成28年12月31日現在 |
| 貸借対照表 | 資 産 | 49,160 | 51,938 | 38,656 | |
| | 負 債 | 112,474 | 113,460 | 98,900 | |
| | 純資産 | △63,314 | △61,522 | △60,244 | |
| | 資本金 | 120,000 | 120,000 | 120,000 | |
| | 剰余金・欠損金 | △183,314 | △181,522 | △180,244 | |
| その他 | 0 | 0 | 0 | | |

7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



| | |
|----|---|
| 評価 | B |
|----|---|

| | 評価基準 | 備考 |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| A-1 | 累積欠損金がなく、単年度黒字の場合 | 引き続き経営努力を行う。 |
| A-2 | 累積欠損金がなく、単年度赤字の場合 | 複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。 |
| A-3 | 累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合 | 経営改善の努力を要する。 |
| A-4 | 累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合 | 経営改善の一層の努力を要する。 |
| B | 累積欠損金が資本金の50%以上の場合 | 事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。 |

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

- 第14期（平成23年）より累積欠損金が資本金を上回り、純資産がマイナスとなる債務超過の状態が続いている。

※資本金に対する累積欠損金の割合

第17期（平成26年）：152.8% 第18期（平成27年）：151.3% 第19期（平成28年）：150.2%

8 市の関与の状況

(1) 市の委託額

(単位：千円)

| 内訳 | | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 備考 |
|----|-------|----------|----------|----------|-------------------------|
| ① | 指定管理料 | 42,787 | 44,884 | 44,418 | くわどり湯ったり村、ヨーデル金谷、ゆったりの家 |
| ② | | | | | |
| ③ | | | | | |
| ④ | | | | | |
| ⑤ | | | | | |
| 計 | | 42,787 | 44,884 | 44,418 | |

(2) 市の財政援助額

(単位：千円)

| 内訳 | | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 備考 |
|----|----------|----------|----------|----------|---------------------------------|
| ① | 補助金（助成金） | | | | |
| ② | 貸付金 | | | | |
| ③ | 損失補償 | 39,992 | 39,998 | 39,721 | 借入限度額 40,000 千円 |
| ④ | 債務保証 | | | | |
| ⑤ | その他（補填金） | 1,816 | 1,625 | 1,625 | シニアパスポート減免補填金 （平成 28 年度は予算額） |
| 計 | | 41,808 | 41,623 | 41,346 | |

9 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

既存の事業はもとより収益性の高い分野を見極め売上増強、経費については引き続き可能な範囲で削減努力を惜しまず、損益改善をはかり、経営安定化に努める。

① くわどり湯ったり村

- ・ 各種イベントを定期的で開催し、集客および複数部門の循環型利用を推し進め、売上の上昇を促す。
- ・ ネットワークや IT を活用した効率的な営業活動を行い、新規顧客の確保に努める。

② ヨーデル金谷

- ・ ランチ・ディナーともにメニューの見直しを行い、終日を通じての集客を図る。
- ・ 季節ごとのイベントを積極的に展開し、併せてホームページ・フェイスブックの拡充も図る。

③ 会社全般

- ・ 定期的なミーティングを持ち、意見交換の場を設定するとともに、計画の進捗管理にも参画させることにより、従業員のモチベーションの向上を図る。
- ・ 高単価商品（宿泊、宴会、法要、プライダル等の団体利用）を積極的に獲得する。

(2) 中長期経営計画

平成 28 年 2 月に第 19 期以降 3 か年の中期経営計画を策定し、単年度黒字を継続的に計上することによる債務超過の解消を図るため、経営改善に向けた努力目標を掲げた。

施設別の主な努力目標は、次のとおりである。

① くわどり湯ったり村

- ・ 地域の特徴等を活かしたメニューの開発
- ・ 相互サービス体制による効率化

② ヨーデル金谷

- ・ 高単価商品の獲得
- ・ 広告や DM 等による営業の強化

第 19 期 報 告 書

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

事業報告書

貸借対照表

損益計算書

株主資本等変動計算書

個別注記表

監査報告書

リフレ上越山里振興株式会社

第 19 期営業報告書

(平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日まで)

営業の概況

全社の概況

当期は損益改善をはかり、経費につきましても顧客満足度に影響のでない範囲で引き続き削減を行い経営安定化に努めてまいりました。外的要因ながら、電気・ガス・灯油などエネルギー関係の価格の低下も損益バランスの安定に寄与しました。また、組織改革をより一層進め、人件費を含む経費の見直しをかけることによる経費削減を実行、それに伴い前期に続き従業員には負担を強いることとなり、堪え忍んでくれた従業員には感謝するものです。収益構造の抜本的な見直しにより、昨年に引き続きで両施設ともに黒字計上致すこととなりました。

当期の施設別営業概況は次のとおりです

◆くわどり湯ったり村

経費削減を推し進めた結果、販売費及び一般管理費の縮小により四期連続の黒字計上となりました。毎回 100 人以上を集客する独自の各種イベント「湯ったり村祭り」「湯ったり村大忘年会」や、「舞踊・歌謡ショー」の開催、「トレイルランニング大会」などを新たに展開し地域内外のリピーターを含む新規のお客様にご利用頂きました。このようなイベントは、イベント自体の収益はもとより、附随する、入浴・レストラン・売店・宿泊の売上増にも寄与しました。また、「老人会プラン」「ゲートボールプラン」など施設の特性を生かしたプランを早期に提案することによる顧客の囲い込み、新規利用の増加など積極的な営業活動の結果が実を結びました。全体の売上は落としたものの、客単価に関しては温泉を除く全ての部門で昨年対比増の結果となりました。昨年に引き続き、総合サービス体制を強化し、また、社長自ら頻繁に現場に赴き、施設の改善や従業員に対してのモチベーションの向上、問題点の早期発見がなされ、より安定した組織作りがなされました。上記の結果、改善を踏まえ収益構造の安定化が表れた期となりました。

◆ ヨーデル金谷

●売上の主要部門が前年割れ のなか経費削減等もあり 2 年連続の単年度黒字計上。

◆本年は、競合の進出、提携プライダル企業の不振等もあり売上前年比 90.1%（委託料及びチケット売上を除く）と苦戦。◆特に契約プライダル企業からの斡旋は 60.3%で 4 割減。◆6・7 月以降の競合の進出により 7 月まで前年比 101%で推移した売上が 8 月以降 86%まで落ち込む（一般営業及びプライダル売上のみ）。◆状況を打開すべく、秋以降「ハロウィン」「クリスマス」など 100 名規模のイベントを実施、あわせてホームページの開設、フェイスブックの拡充など新たな顧客の掘り起こしを図った。宴会や婚礼 2 次会等の DM 送迎や営業活動も行い 10 月など盛返す月も見られたが全体の底上げには届かなかった。●管理部門では、昨年より本社主導での経費削減、人件費の整理等が好走し売上減を補う形で減少した。◆売上原価は高値安定の様相で特に肉・魚の上昇が著しい。通年で比較的安定価格の「豚・鶏」を主体にメニュー構成を行い、ロスを出さない取組みを徹底した。◆販売管理費は減少。昨年に続き人件費が削減されたこと、水道光熱費の単価が安値安定であったことが要因。◆スタッフ同一の協力により何とか乗り切った一年でありました。

◆施設別売上高・営業利益

| | くわどり湯ったり村 | ヨ ー デ ル 金 谷 |
|---------|-------------|-------------|
| 売 上 高 | 113,852,160 | 51,437,447 |
| 営 業 利 益 | 1,274,281 | 1,389,365 |

事業の成績及び財産の状況の推移

| 区 分 | 第 18 期 | 第 19 期 |
|-----------------|--|--|
| | 平成 27 年 1 月 1 日から 平成 27 年 12 月 31 日まで | 平成 28 年 1 月 1 日から 平成 28 年 12 月 31 日まで |
| 売 上 高 | 175,761,003 円 | 165,289,607 円 |
| 経 常 利 益 | 5,652,519 円 | 2,322,490 円 |
| 当 期 利 益 | 1,791,719 円 | 1,277,553 円 |
| 1 株 当 り 当 期 利 益 | 746 円 55 銭 | 532 円 31 銭 |
| 総 資 産 | 51,937,843 円 | 38,655,903 円 |
| 純 資 産 | △61,522,093 円 | △60,244,540 円 |

会社の概要

(1) 主要な事業内容

- ・ 上越市の所有若しくは管理する不動産及び温泉保養施設、農林水産加工施設、地域食材供給施設の管理運営に関する事業。
- ・ 飲食店の経営
食料品、酒類、清涼飲料、観光土産品、たばこ、医薬品、新聞、書籍及び日用品雑貨の販売
- ・ 文化振興に関する事業

(2) 株式の状況

- ・ 会社が発行する株式の総数 2,400 株
- ・ 発行済み株式総数 2,400 株
- ・ 当期末株主数 131 人
- ・ 大株主（平成 28 年 12 月 31 日現在）

| 株 主 名 | 持ち株数 | 持ち株比率 |
|-------------|-------|-------|
| 上越市 | 2,106 | 87.8% |
| えちご上越農業協同組合 | 100 | 4.2% |
| くびき野森林組合 | 20 | 0.8% |
| 頸城自動車株式会社 | 20 | 0.8% |
| 協同組合ウッドワーク | 10 | 0.4% |
| 上越市漁業協同組合 | 10 | 0.4% |
| 桑取川漁業協同組合 | 10 | 0.4% |

(3) 事業所の状況

- ・ くわどり湯ったり村 上越市大字皆口 601 番地
- ・ ヨーデル金谷 上越市大貫 2 丁目 17 番 40 号

(4) 従業員の状況 (平成 28 年 12 月 31 日現在)

- ・ 男性 10 名 (内 臨時 3 名)
- ・ 女性 13 名 (内 臨時 8 名)
- ・ 合計 23 名 (内 臨時 11 名)

(5) 主要な借入先

えちご上越農業協同組合 (当座貸越)
平成 28 年 12 月 31 日現在 39,721,382 円
上越信用金庫 他 (長期借入)
平成 28 年 12 月 31 日現在 40,637,500 円

(6) 取締役及び監査役 (平成 28 年 12 月 31 日現在)

| 地 位 | 氏 名 | 担当又は主な職業 |
|-------|-------|-------------------|
| 代表取締役 | 田中 弘邦 | 上越観光コンベンション協会 会長 |
| 副 社 長 | 大竹 和夫 | 頸城自動車株式会社 代表取締役会長 |
| 取 締 役 | 野口 和広 | 上越市 副市長 |
| 取 締 役 | 米山 均 | 協同組合ウッドワーク 理事長 |
| 取 締 役 | 仲田 紀夫 | 上越市漁業協同組合 代表理事組合長 |
| 取 締 役 | 平井 民夫 | 桑取川漁業協同組合 代表理事組合長 |
| 取 締 役 | 佐藤 一男 | 桑取地区町内会長協議会 会長 |
| 取 締 役 | 高橋 敏光 | 金谷地区町内会長会 会長 |
| 取 締 役 | 伊藤 正一 | 地域代表 |
| 取 締 役 | 曾我 文隆 | 地域代表 |
| 取 締 役 | 笹原 智子 | 地域代表 |
| 監 査 役 | 丸山 義雄 | 谷浜地区町内会長連絡協議会 会長 |

貸借対照表

平成 28 年 12 月 31 日

(当期会計期間末)

単位： 円

リフレ上越山里振興株式会社

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|------------|--------------|------------|----------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 【流動資産】 | 8,694,222】 | 【流動負債】 | 58,262,943】 |
| 現金 | 1,289,500 | 短期借入金 | 39,721,382 |
| 小口現金 | 254,709 | 未払金 | 14,294,839 |
| 普通預金 | 2,205,742 | 未払消費税 | 3,070,900 |
| 郵便貯金 | 13,982 | 預り金 | 362,022 |
| 売掛金 | 546,113 | 未払法人税等 | 813,800 |
| 商品 | 1,753,656 | 【固定負債】 | 40,637,500】 |
| 貯蔵品 | 1,663,588 | 長期借入金 | 40,637,500 |
| 前払費用 | 756,456 | 負債の部合計 | 98,900,443 |
| 仮払金 | 210,476 | | |
| 【固定資産】 | 29,961,681】 | | |
| (有形固定資産) | (21,107,551) | 純 資 産 の 部 | |
| 建物 | 2,912,195 | 【株主資本】 | △60,244,540】 |
| 建物付属設備 | 5,945,933 | 【資本金】 | 120,000,000】 |
| 構築物 | 188,929 | 【利益剰余金】 | △180,244,540】 |
| 工具器具備品 | 8,514,988 | (その他利益剰余金) | (△180,244,540) |
| 一括償却資産 | 3,545,506 | 繰越利益剰余金 | △180,244,540 |
| (無形固定資産) | (653,300) | | |
| 電話加入権 | 648,800 | | |
| ソフトウェア | 4,500 | | |
| (投資その他の資産) | (8,200,830) | | |
| 出資金 | 20,000 | 純資産の部合計 | △60,244,540 |
| 長期前払費用 | 8,180,830 | 負債・純資産の部合計 | 38,655,903 |
| 資産の部合計 | 38,655,903 | | |

損 益 計 算 書

自 平成 28年 1月 1日 至 平成 28年 12月 31日

リフレ上越山里振興株式会社

単位： 円

| 科 目 | 金 | 額 |
|--------------|-------------|-------------|
| 【売上高】 | | |
| 売上高 | 165,289,607 | 165,289,607 |
| 【売上原価】 | | |
| 期首商品棚卸高 | 2,127,925 | |
| 当期商品仕入高 | 42,190,862 | |
| 期末商品棚卸高 | △ 1,753,656 | 42,565,131 |
| 売上総利益 | | 122,724,476 |
| 【販売費及び一般管理費】 | | 120,060,830 |
| 営業利益 | | 2,663,646 |
| 【営業外収益】 | | |
| 受取利息 | 270 | |
| 受取配当金 | 600 | |
| 雑収入 | 1,175,478 | 1,176,348 |
| 【営業外費用】 | | |
| 支払利息 | 1,517,504 | 1,517,504 |
| 経常利益 | | 2,322,490 |
| 税引前当期純利益 | | 2,322,490 |
| 法人税及び住民税額 | | 1,044,937 |
| 当期純利益 | | 1,277,553 |

販売費及び一般管理費明細書

自 平成 28 年 1 月 1 日 至 平成 28 年 12 月 31 日

(当期累計期間)

リフレ上越山里振興株式会社

単位： 円

| 科 目 | 金 額 | 額 |
|---------|------------|-------------|
| 給与手当 | 32,835,431 | |
| 臨時雇入費 | 17,972,876 | |
| 退職金 | 3,446,251 | |
| 法定福利費 | 7,099,294 | |
| 福利厚生費 | 185,885 | |
| 消耗品費 | 2,570,445 | |
| 事務用品費 | 858,376 | |
| 賃借料 | 3,200,192 | |
| 保険料 | 2,112,604 | |
| 修繕費 | 71,112 | |
| 租税公課 | 143,962 | |
| 減価償却費 | 6,255,389 | |
| 通信費 | 773,787 | |
| 水道光熱費 | 14,683,037 | |
| 支払手数料 | 496,122 | |
| 荷造発送費 | 53,036 | |
| 広告宣伝費 | 540,194 | |
| 接待交際費 | 41,381 | |
| イベント費 | 172,402 | |
| 施設維持管理費 | 11,246,657 | |
| リネン費 | 2,656,491 | |
| 燃料費 | 10,460,974 | |
| 車両掛費 | 1,087,070 | |
| 新聞図書費 | 140,885 | |
| 諸会費 | 173,891 | |
| クリーニング費 | 123,880 | |
| 会議費 | 192,843 | |
| 雑費 | 466,363 | |
| 合 計 | | 120,060,830 |

株主資本等変動計算書

自平成28年1月1日 至平成28年12月31日

(当期累計期間)

リフレ上越山里振興株式会社

単位：円

| 科 目 | 変 動 事 由 | 金 額 |
|---------------------------------|-------------------------------|---|
| 【株主資本 【資本金】 | 当期首残高及び当期末残高 | 120,000,000 |
| 【利益剰余金 (その他利益剰余金) 繰越利益剰余金 | 当期首残高 当期変動額 当期純利益 当期末残高 | △181,522,093 1,277,553 △180,244,540 |
| 利益剰余金合計 | 当期首残高 当期変動額 当期末残高 | △181,522,093 1,277,553 △180,244,540 |
| 株主資本合計 | 当期首残高 当期変動額 当期末残高 | △61,522,093 1,277,553 △60,244,540 |
| 純資産合計 | 当期首残高 当期変動額 当期末残高 | △61,522,093 1,277,553 △60,244,540 |

個 別 注 記 表

自 平成 28 年 1 月 1 日
至 平成 28 年 12 月 31 日

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな御資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法の規定に基づく旧定額法および定額法を採用しております。

ただし、取得価格10万円以上20万円未満の資産については、法人税法の規定に基づく3年均等償却を採用しております。

無形固定資産

ソフトウェアは社内における利用期間（5年）に基づく旧定額法を採用しております。

リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

II. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

36,250,652円

消費税及び地方消費税の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式

普通株式（発行済株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

2,400株

IV. リースにより使用する固定資産に関する注記

その他リース物件に係る重要な事項

リース契約により使用している固定資産

貸借対照表に計上した固定資産のほかリース契約により使用しているものは次のとおりです。

車両運搬具 3台

リース期間 7年及び5年並びに1年

当期のリース料

2,073,308円

V. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額

-25,101円

1株当たりの当期純利益金額又は当期純損失金額

532円

監査報告書

リフレ上越山里振興株式会社の平成28年1月1日から平成28年12月31日までの第19期事業年度の会計帳簿、貸借対照表、損益計算書、事業報告書、株主資本等変動計算書、個別注記表について監査いたしました。いずれも適法かつ妥当であることを認めます。

平成29年 / 月30日

監査役 丸山義雄 

第20期 事業計画

損益計算書

自平成29年1月1日 至平成29年12月31日

(単位：千円)

| 科 目 | 第20期案 | 備 考 |
|------------|---------|--------|
| 売上高 | 179,342 | |
| 宿泊売上 | 37,000 | |
| 日帰売上 | 14,000 | |
| 風呂売上 | 11,000 | |
| レストラン売上 | 52,500 | |
| 売店売上 | 9,000 | |
| チケット売上 | 3,000 | |
| ブライダル売上 | 11,700 | |
| その他売上 | 41,142 | 上越市委託金 |
| 売上原価 | 48,500 | |
| 外注費 | 1,000 | |
| 厨房仕入 | 33,100 | |
| 飲料仕入 | 8,400 | |
| 売店仕入 | 5,200 | |
| その他仕入 | 800 | |
| 売上総利益 | 130,842 | |
| 販売費及び一般管理費 | 127,810 | |
| 給与手当 | 38,000 | |
| 臨時雇入費 | 15,000 | |
| 法定福利費 | 8,000 | |
| 福利厚生費 | 300 | |
| 消耗品費 | 2,500 | |
| 事務用品費 | 700 | |
| 賃借料 | 3,000 | |
| 保険料 | 3,200 | |
| 修繕費 | 500 | |
| 租税公課 | 400 | |
| 通信費 | 750 | |
| 水道光熱費 | 16,000 | |
| 支払手数料 | 550 | |
| 荷造発送費 | 50 | |
| 広告宣伝費 | 1,000 | |
| 施設維持管理費 | 13,000 | |
| リネン費 | 2,800 | |
| 燃料費 | 13,500 | |
| 車両掛費 | 1,100 | |
| 新聞図書費 | 150 | |
| 諸会費 | 180 | |
| クリーニング費 | 130 | |
| 会議費 | 300 | |
| 減価償却費 | 6,200 | |
| 雑費 | 500 | |
| 営業利益 | 3,032 | |
| 営業外収益 | 1,000 | |
| 営業外費用 | 1,400 | |
| 経常利益 | 2,632 | |
| 税引前当期利益 | 2,632 | |
| 法人税及び住民税 | 1,100 | |
| 当期利益 | 1,532 | |

第20期 事業計画

既存の事業はもとより収益性の高い分野を見極め売上増強、経費については引き続き可能な範囲で削減努力を惜しまず、損益改善をはかり、経営安定化に努める。

また、役員会・経営委員会など内部外部にとらわれず積極的な意見交換、および現場レベルにおいても、社長・経理・施設長を中心とした組織体制を確立し、試算表を元にスタッフ一丸となり、黒字計上に向けた方向性を明確にし、共有する考えです。

1 会社全般

- ① 定期的なミーティングを持ち、意見交換の場を設定するとともに、計画の進捗管理にも参画させ、モチベーションの向上を図る。
- ② 高単価商品（宿泊、宴会、法要、ブライダル等の団体利用）を積極的に獲得する。

2 くわどり湯ったり村

- ① 各種イベントを定期的で開催し、集客および複数部門の循環型利用を推し進め、売上の上昇を促す。
- ② ネットワークやITを活用した効率的な営業活動を行い、新規顧客の確保に努める。

3 ヨーデル金谷

- ① ランチ・ディナーともにメニューの見直しを行い、終日を通じての集客を図る。
- ② 季節ごとのイベントを積極的に展開し合わせてHP・FBの拡充も図る
- ③ 提携ブライダル企業との連携を強化し、ブライダル獲得のために積極的に協力する。
- ④ スタッフを固定化して、人力的な安定を図る（正社員化）と同時にサービス・厨房の両スタッフが仕事を共有できるようにする。
- ⑤ 他社との連携も模索し、イベントや新たなブライダル等の掘り起こしに積極的に参画する。